



みんなのお箸

タブー

奥の方に置いてある小鉢を箸先でズスッと手前に引っ張ってきたり、口の中に食べ物が入っているのに話をしたり……。食事中、何気なくやっていませんか。

国際箸学会幹事で箸講師の鈴木道ごさんは「あれもだめ、これもだめと言われると食事自体が楽しくなくなります。ただ、一緒に食事をする人が不快な気持ちにならないように、最低限の心遣いは知っておいてほしい」という。

大原則としては、箸先を相手に向けるのは避けたい。話

に夢中になって箸を持ったまま振り回すのも失礼になる。左下の「避けたい箸遣い5カ条」を心に留めておこう。

「一人で食べる『個食』が多くなってきたこと、家族で別々のものを食べる家庭が増えてきたことなどから、しつけの一つとして伝わってきたことが失われつつあるのでは」と鈴木さんは嘆く。

また、寒くなり友人や会社の人たちと鍋を囲む機会も多くなるだろう。よほど親しい間柄なら直箸すげでもいいが、基本的には避ける。全体の雰囲気

一緒に食べる人を不快にしない

避けたい箸遣い5カ条

①迷い箸

食卓に並ぶ料理の上を、あちこち迷い動かすのは、料理を作ってくれた人に対し、失礼になる。

②箸渡し

箸同士で料理をやりとりする。お葬式で骨を拾う時のもので、喪を連想させるので避ける。ご飯の上に箸を刺すのも同様にいけない。

③寄せ箸

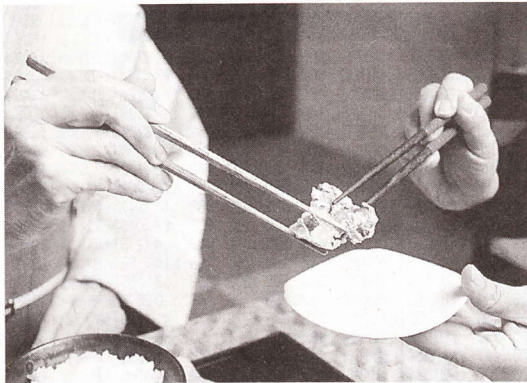
箸で器を手前に寄せる。テーブル、食器を傷つけることもあるし、見た目も美しくない。

④刺し箸

料理に箸を突き刺して食べる。箸を凶器のように使うのは避けたい。料理の意味を台無しにし食べ物に粗末に扱う印象が強い。器の中で自分の口の大きさに切ってから食べる。

⑤探り箸

器の中を箸でかき混ぜ、何かがあるかを探す。



喪をイメージする箸渡しは避ける

気を見ながら、最初に菜箸でみんなの分を取り分けてあげるのがベストだ。
【小川節子、写真も】

箸を握ったままおわんを持つのは避ける

